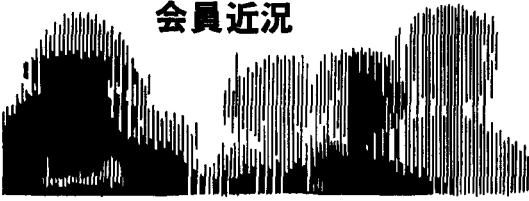


## 会員近況



九州大学工学部  
生産機械工学教室 須永 照雄

チェックに苦勞 私の所は、機械系教室の中の1講座としてOR、統計、生産管理の研究や講義を行なっていますが、OR専門というわけにもいかない点があります。

学生の頃、数値計算の誤差に関心をもちましたが、公差や加工誤差・精度の考え方と共通の点があり、いまでも関心もっています。計算機は自分の計算にもっと責任をもち、誤差評価も結果として出すべきとの考えもっています。誤差というとき近似計算を思い出しますが、もった厳密解法の困難な待ち行列問題の近似解法にとりこんでいます。近似解法を考えても、そのチェックに苦勞しています。

その他、OR学会九州支部のお世話をしています。研究会を年10回近く行ない、今後のORの模索をしています。地域が広くORをやる人の過疎が悩みの種です。

(株)日本科学技術研修所  
常務取締役 守江 治夫

認知の次は 当社は、コンピュータに関連するソフトウェアの開発、情報処理サービス業を主要業務としている。去る6月16日に当業界の年来の希望であった「特定機械情報産業振興臨時措置法」(略称・機情法)が国会で成立し、ソフトウェア業が法定業種として社会的に認知された。これにともないソフトウェア業界の高度化計画の策定、経営基盤の確立が要請され、知識集約型産業への方向づけが明確化されることと思う。それにはOR学会メンバー各位のすぐれた知見と経験の協力、指導がぜひとも必要と痛感している。ソフト業とOR学会との懇談の場の設定を乞う。

日本IBM(株)  
東日本第一営業本部 小池 清

ブームももう一度 一つの物事を成すときPlan-do-Seeというサイクルがあることがいわれている。われわれ日本人はどうもこのPlanがにがてである。それならばということで、コンピュータはどうだ、ORはどうだ、と一時空前のMISブームが吹きあれたことがある。熱しやすくさめやすいのもまたわれわれの特性、今やMISもカンコ鳥。

しかしコンピュータ・テクノロジーは着実に進歩してきておりローコストでエンジンパワーの大きな機械が継続と登場してきている。ひと昔前夢だったICS(Interaction Computing System, TSSのこと)がたやすく使えるようになってきているのだが、企業のPlannerは依然としてロッカーファイルからデータを引っ張り出して電卓とソロバンでPlanningを行なっている。

ORブーム、MISブームをもう一度まき起こすにはどうしたらよいか……なんてことをツラツラ考えている昨今である。

九州大学工学部造船学科 上田 耕平

いまこそ最適化を 大型タンカーの建造、100万トン・ドックに代表された空前の造船ブームも石油ショック以来どこへやら。構造不況、中小造船会社の倒産、造船施設・設備の縮小と暗い影に脅かされている。いまこそ日本造船業界全体としての最適化、そしてその中での企業各個の最適化の問題は非常に重要な問題であり、ORを十分活用しなければならない時である——と思いつつも私はいままも、船舶推進の研究の一つとして、大型タンカーに適しているとして採用されたダクトプロペラの性能に関する理論的研究を続けている。

(所属学会)日本造船学会、西部造船会、情報処理学会

ジレンマ 1973年春、日本のエネルギー経済は、長期不況とエネルギー需給のアンバランスという二つの要因をかかえて、低成長経済時代への移行を開始している。政府や各研究機関で、いろいろなエネルギー経済の長期展望作業が行なわれているが、発表段階になって改訂作業を行なうという状態ではないでしょうか。

これらの改訂作業のほとんどは、長期産業構造に大幅な変化を推定されるなかで、エネルギー需要予測は従来のトレンド・タイプを使用するという矛盾に起因している。もし、エネルギー需要予測にも大胆な変化を織り込むと、その結果に対し、大方の同意を得ることは非常にむずかしくなる。いずれの予測方法でも、その結果の差が少なければ許されるが、往々にして輸入原油で1億k $\ell$ もの差を生じることもある。ORの長期予測を担当している学会員の方々は多かれ少なかれ、このジレンマに悩んでおられるのではないのでしょうか。私もその一人です。

末端会員への配慮ありがたく 商学部で教鞭をとりながら、都市再開発事業やSC開発事業、地域計画における商業計画、投資計画、地元企業対策事業の調査研究をしたり、地元企業の経営相談指導を行なったりしています。

そのほか、設計事務所や都市計画コンサルタントの方のお手伝いとして企業診断・経営計画作成、遊休土地活用計画の調査、商業地診断と営業開発、企業開発の計画作成、商店街整備計画作成等を行なっております。

また中小企業診断士として都道府県や市町村の商工経営指導機関の依頼で、中小工業の営業再開指導、業種転換、広域商業診断、商店街診断等を行なっております。

これらの仕事でORの問題が多く相談したいときにご指導願えないか、また仲間に入って一緒にやっていただける機会があればありがたいですが。また今回のように末端会員へご配慮くださることは私としてOR学会員としての意識が目ざめさせられました。大変うれしくこのようなことは絶えないようにしてください。

一企業の中で過去に5年ほどオンラインシステム設計に使われる待ちモデルの仕事をしていました。当時、社内では手がけた人がおりませんでしたので、最初はとても戸惑いましたが、手当たり次第に待ち関係の本を読んだり実際に稼動しているオンラインシステムの一つを取り上げてOSの動き、プログラムの内容、データの流れ等を納得のゆくまで調べました。その中で現場の人たちと勉強会を開いたり待ち行列マニュアルを作成したりということを行ない、待ちモデルの必要性を理解してもらいなんとか使ってもらえるようになったのは3年目か4年目頃でした。5年経って後任者にゆだねる頃にはギブアップするほど、待ち計算の依頼がつきつきと出てくるようになりました。当初、OR学会の待ち行列部会に出席させていただきましたが知識の少ない私には大変勉強になり、仕事にずいぶん役立させていただきました。現在は仕事をしておりませんが、将来なんらかの形でまたたずさわりたいと思っております。

現在、制御工学関係の研究室に所属し、おもに適応制御系の安定問題にとりこんでおります。オンラインのシステム同定に密接に関係する問題ですので、確率論の（私にとっては）高度の知識を必要とし、なかなか進展せず四苦八苦しているところです。また、大学院時代からの継続で、離散的最適化問題の解法とその具体的応用に関する研究を進めております。

かつて、電力システムの設備計画を手がけたことがありますが、問題の複雑さに閉口して、適当なところで打ち切りにしてしまいました。

最近、コンピュータ関係のある研究会に出席する機会があって、コンピュータネットワークにおける optimal file allocation という問題に興味をもちました。その方面の専門の方の力をお借りして、文献を少しずつあさっているところです。当面、Branch and Bound 法を適用してみて、どの程度の規模まで扱えるか検討してみようと思っております。